

富山県小矢部市

埴生南遺跡発掘調査報告書

— 宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査 —

2011年3月

小矢部市教育委員会

序

小矢部市は、富山県の西側の県境地で三方を低い丘陵に囲まれています。東へむかって開く平野には市街や農村が営まれ、その中央に流れを集めた清流小矢部川が北流しています。小矢部市は水運や県境の低丘陵地を抜ける北陸道の陸路などに恵まれた交通の要衝として発展してきた町です。

埴生南遺跡は、昭和57年度に実施された市内遺跡分布調査にその存在が確認されたもので、以後、開発に伴い実施された調査から、縄文時代から中世の遺跡であることがわかっています。

本書は、宅地造成事業に伴い、平成22年度に実施した埴生南遺跡の発掘調査成果について報告するものです。今回の調査では、古代の建物跡や須恵器の大きな水壺を10個体以上も発見し、当時の人々の生活の一端を垣間見ることができました。

この発掘成果が、今後の研究の参考となり、埋蔵文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

終わりに、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご理解とご協力をいただきましたアットホーム株式会社をはじめ、埴生地区の皆様や関係各位の方々に心から感謝申し上げます。

平成23年3月

小矢部市教育委員会
教育長 日光 久悦

例　言

1. 本書は、富山県小矢部市埴生地内に所在する埴生南遺跡で実施した発掘調査について報告するものである。
2. この発掘調査は、宅地造成事業に伴うもので、小矢部市教育委員会がアットホーム株式会社(以下「アットホーム㈱」とする。)より委託を受けて実施した。
3. 調査年度、発掘面積、調査期間は次のとおりである。
2010(平成22)年度　全面調査600m²、現地調査は平成22年4月26日～平成22年6月21日、整理作業は平成22年6月22日～平成23年3月30日
4. 調査主体は小矢部市教育委員会である。発掘調査担当者は以下のとおりである。

総括　文化スポーツ課　課長　谷敷　秀次
主務　同上　主任　中井　真夕

5. 現地発掘調査参加者　株式会社アットホーム、富山県シルバー人材センター連合会会員、田畠　郁子
6. 本書の図集・執筆は、小矢部市教育委員会文化スポーツ課職員の協力を得て、中井が行った。
7. 本書の図・写真図版の表示は次のとおりである。
 - 1) 造構番号は、調査現場で付した番号である。番号は造構の時期および種類に関わらず連番号とした。
ただし、不明造構のみ別に1～4を付した。
 - 2) 造構の略号は次のとおりである。
SB:建物、SD:溝、SK:土坑、P:柱穴、SX:不明造構
 - 3) 本書で示す方位は全て磁北で、水平基準は海拔高である。
 - 4) 参考文献は、著者と発行年(西暦)を()で文中に示し、文末に掲載した。
 - 5) 造構図の縮尺は、全体図等は1/150である。土層断面図は1/100、造構平面図と造構断面図は1/40とした。造物図には造物の大きさに応じて1/2、1/3、1/4、1/6がある。
 - 6) 写真図版の縮尺は、全景および造構、断面は任意、造物は造物の大きさに応じて1/3、1/4、1/8がある。
8. 出土遺物と調査に関する資料は、小矢部ふるさと歴史館で保管している。遺物の注記は、埴生南遺跡を示す「HNM」に出土地点等を併記した。また、本書に掲載した遺物は、図版毎にコンテナに入れ収蔵している。
9. 発掘調査中および報告書作成中、アットホーム㈱より多大なる調査協力をいただき無事調査を完了させることができた。また、関係者および関係機関から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。

目 次

第Ⅰ章 位置と環境	1
遺跡の位置と地形	1
歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査に至る経緯	3
第Ⅲ章 調査の概要	4
第Ⅳ章 調査の成果	5
A 稽考	5
B 遺構	5
C 遺物	8
第Ⅴ章 まとめ	9
〈参考文献〉	8

図版目次

図 版

第1図 小矢都市位置図	1
第2図 周辺の主な遺跡(1:40,000)	2
第3図 調査位置図(1:5,000)	2
第4図 グリッド配置図	4
第5図 既存調査と平成22年度調査の遺構配置図(1/800)	12
第6図 遺構全体図(1/150)	13
第7図 掘立柱建物遺構平面・断面図(1/80)	14
第8図 SX1 平面・断面図(1/40)	15
第9図 SX4 平面・断面図(1/40)	16
第10図 上坑ほか遺構平面・断面図(1/100)	17
第11図 調査区東壁断面図(1/100)	18
第12図～第17図 遺物実測図1～6(適宜)	19～24
第18図 SX1 出土須恵器の叩き目の種類(拓本)	25

写真目次

図版1 調査区全景(北より):上段、掘立柱建物(南より):下段	
図版2 SX1(北より):上段、SX4(北より):中段、東壁(南西より):下段	
図版3 遺構断面(P3,P7,P8,P9,SK19,SK21)	
図版4～6 出土遺物	

表

表1 SBO1 規模観察表	5
表2 ピット・窓表	7
表3 遺物観察表	11

第Ⅰ章 位置と環境

遺跡の位置と地形(第1図)

埴生南遺跡は、富山県小矢部市埴生地内に所在する。小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県に隣接する。地形は、北・西・南の三方が丘陵性山地、東が平地、中央部が台地である。山地は、北部に市内最高所である福葉山(標高347m)から宝達山に連なる丘陵と、西方には加越国境線をなす石動丘陵があり、続く南方には医王山の北側を占める蟹谷丘陵とつながる。東側には、庄川の堆積作用によって形成された扇状地である砺波平野が広がる。中央の台地は、庄川と小矢部川が形成した河岸段丘である。

埴生は小矢部市の西端部の県境に位置し石川県津幡町と接しており、県境側の標高200m前後の低丘陵から東に広がる平野部へと傾斜して立地している。

歴史的環境(第2図)

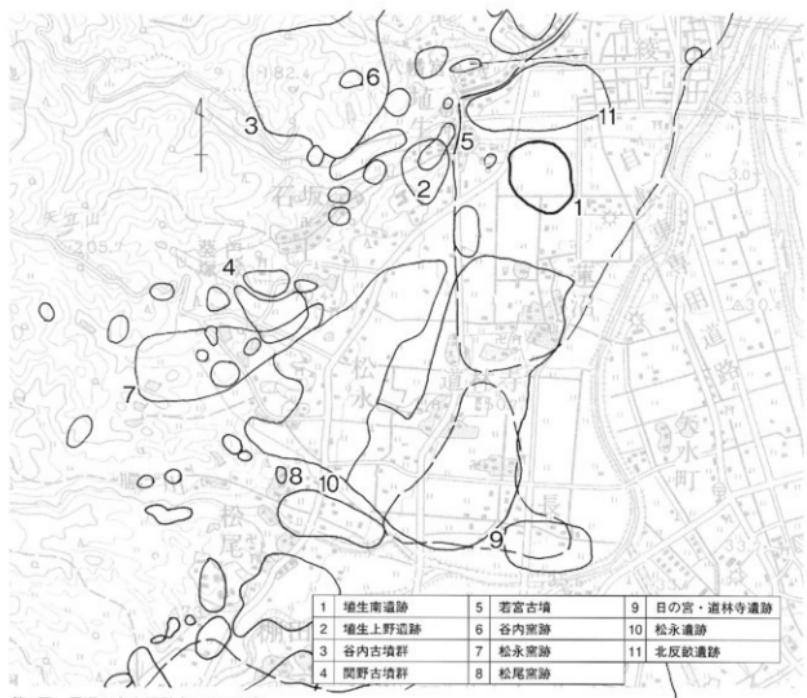
小矢部市では小矢部川左岸から山間部にかけて190以上の遺跡が確認されており、調査結果からは旧石器～中世の各時期で、豊かな内容を持つ遺跡が多く存在していることがわかっている。それとは対象的に小矢部川右岸側では確認された遺跡数は10遺跡と極端に少ない。これは従来から右岸側は、小矢部川と庄川の氾濫源であり、ひとが生活する場を築くとは考えられなかつたことによるものである。しかしながら近年、右岸側にひろがる農村地帯で農業基盤整備事業が計画されたことや、平成26年開業を予定している北陸新幹線関連調査によって本領地崎遺跡をはじめ、小神遺跡や水牧遺跡が発見され一部調査が行われた。また、金屋本江遺跡は面積が拡大した。

埴生南遺跡が位置する埴生地区は、市内で最も遺跡が集中する地域である。時代は旧石器～中世まで様々であるが、主要な遺跡について地形に沿って概観する。丘陵から平野へ向けて加賀から越中へ続く古代北陸道が、北東方向の桜町地内に向かっているとされている。また、丘陵部には埴生上野遺跡や八代西遺跡などの旧石器や縄文時代の遺跡のほか、谷内古墳群、閑野古墳群、若宮古墳など地方では大型に類する首長墓クラスの古墳が連続と染かれている。その丘陵部から下る傾斜地には、谷内窯跡群・松永窯跡群・松尾窯跡群の窯場が操業を行い、須恵器とともに瓦が生産されている。傾斜地を下り広大に広がる平野部には埴生南遺跡をはじめ、日の宮・道林寺遺跡、松永遺跡、北反畠遺跡などの集落遺跡が分布している。

このように埴生地区には、各時代の主要な遺跡が多く分布していることから、その調査の成果は、小矢部市の歴史だけでなく近隣の市町を含む砺波地方において重要な意味合いを持つものとされている。



第1図 小矢部市位置図



第2図 周辺の主な遺跡(1:40,000)



第3図 調査位置図(1:5,000)

第Ⅱ章 調査に至る経緯

調査に至る経緯(第3回)

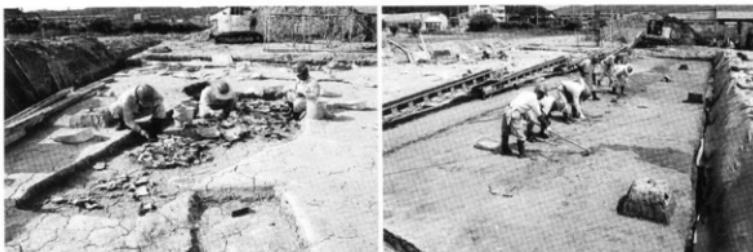
調査は、アットホーム㈱が予定している宅地造成事業に伴うものである。事業対象地が埴生南遺跡の範囲内に位置することから、平成21年度の秋に範囲内の試掘調査を実施した。その結果、対象地の約半分が本発掘調査を要する範囲と確認した。この結果を得て、原作者であるアットホーム㈱と協議を重ねた結果、平成22年度に本発掘調査を実施することで同意を得た。また、調査に必要な人員および機材等、その他の調査費についてはアットホーム㈱が全て負担した。

過去の発掘調査

埴生南遺跡は、昭和57年度(1982年)に小矢部市教育委員会が国庫補助事業の埋蔵文化財分布調査にて発見された遺跡である。平成の4~5年度にかけて集合住宅建設をはじめとする開発が数件行われ調査を実施する機会を得ていた。

調査の結果、縄文時代から中世の各時期の遺跡であることが判明した。弥生時代の遺跡は、小矢部市内でも分布が少なく、遺構は確認されていないものの口縁部に綾状の刺突文や刻みが巡る中期の弥生土器がまとまって出土している。また、後期後半の遺物が少ないながら出土している。古代では、8世紀初め頃の掘立柱建物と人面埴輪土器と思われる遺物が出土している。また、遺構に伴うものではないが、陶棺の破片が20点余り出土している。陶棺の分布は岡山県と近畿地方が圧倒的に多いとされており、富山県内では6例の出土例を数えるのみである。中世では、12世紀後半~13世紀初めごろの遺構や遺物が確認されている。

(この陶棺については、上野亨2010『埴生南遺跡』[富山県小矢部市平成21年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査報告書]小矢部市教育委員会を参照されたい。)



調査風景(平成22年度調査)

第Ⅲ章 調査の概要

A 調査地の現況

調査地は、遺跡の北端に位置し、隣接する西側に広がる水田とはほぼ同じ面積の水田であった。北側には小矢部川の支流である洪江川に注ぐ尾根門川が東西に流れている。対して南側には20件ほどの住宅街が広がり、隣接する東側には集合住宅が2棟ある閑静な場所である。周辺には市街地から北陸自動車道小矢部ICへ向かう主要地方道小矢部・福光線がほぼ南北に走り、遺跡の中央部を通り抜けて行く。

B 調査区の区割(第4図)



第IV章 調査の成果

A 概要

本年度の調査面積は東西20m、南北30mの約600m²である。IV層上面を遺構の検出面としており、地表面から50~70cmの深さに存在している。その上には、水田耕作土、I~III層が堆積している。調査の結果、遺構は土坑(SK)7基、掘立柱建物(SB)1棟、ピット(P)4基、不明造構(SX)4ヶ所を確認した。遺構の年代は出土遺物から、平安時代前半に属すると考えられる。包含層の遺物には古代をはじめ中世の遺物もみられる。遺物量は土器類がコンテナ約40箱強あり、調査面積や検出遺構数および包含層厚からは多いと思われる。

B 遺構(第5~11図、図版1~3)

掘立柱建物 SB01

調査区の南西端(X130、Y15付近)に位置し、ほぼ南北方向に桁行が向く形で立地する丸の付く側柱建物である。桁行き3間(5.5m)×梁行き2間(4m)で、床面積は22m²、N=26°-Wである。柱穴の規模は直径20~30cm、深さは20~50cmであるが、P10とP18は深さ15cm程度で浅い。掘り方は円形を呈し、そのうちで柱痕はP11とP15を除くすべてで確認した。柱根や礎板等はみられなかった。柱穴の覆土は褐色灰色粘質土(10YR4/1)、柱痕は黒色シルト(10YR2/1)である。P3、P7、P9は底部部分で、建物本体から1.7m北側に設置されている。

遺構番号	平面形	規 模(cm)			柱根の有無
		長軸	短軸	深さ	
P3	楕円	28	26	20	痕跡のみ確認
P4	円	36	34	24	痕跡のみ確認
P5	円	24	20	12	痕跡のみ確認
P6	円	34	32	26	痕跡のみ確認
P7	楕円	26	24	22	痕跡のみ確認
P8	楕円	40	36	22	痕跡のみ確認
P9	円	26	24	20	痕跡のみ確認
P10	円	32	30	10	痕跡のみ確認
P11	円	26	26	20	—
P12	楕円	88	44	10	痕跡のみ確認
P15	楕円	36	26	18	—
P18	楕円	38	34	8	痕跡のみ確認

表1 SB01規格観察表

土坑

検出した位置や含まれる遺物からは、本来の設置の意味はわからないが、少なくともSK19、SK21は、調査区外へ延びており、南側に広がる住宅街の下で確認された住居跡をはじめとする遺構との関連性があるものと考えられる。また、SK22やSK23は両方とも不明遺構であるSX1やSX4の須恵器集中区域に位置しているため、それらに関係があるものと考えられる。

SK1 調査区の南東(X130、Y15付近)に位置し、径100cm、深さ85cmの円形を呈し、その覆土は3層からなる。最上層には炭化物が混入しており、その下層は上層土が水分を持って腐植土となっている。両層とも黒色粘質土もしくは粘土である。最下層は黄灰色粘土である。遺物は摩滅した土師器が1点、最下層から出土した。堆積土からゴミ捨て穴である可能性が考えられる。

SK2 SK1の約2m南側に位置し、径40cm、深さ20cmの円形で、覆土は褐灰色粘質土である。遺物の出土はなかった。

SK19 調査区の南端(X122、Y10付近)に位置し、さらに南側の調査区外へ延びるため規模は判らないが、断面から少なくとも長さは130cmあり、深さは40cmを確認できる。遺物は土師器等が出土している。

SK20 SK19の北側に位置し、長軸180cm、短軸90cm、深さ15cmで、平面形は橢円で中央がくびれている。覆土はオリーブ黒色シルトである。遺物は土師器が出土した。

SK21 SK19から1.5m東側に位置し、SK19と同様に調査区外となる南側へ延びていくため本来の規模は判らない。断面からは長さが150cm、深さは24cmの規模があることを確認できる。覆土は3層にわかれ、最下層のオリーブ褐色砂層からは土師器や須恵器が出土している。

SK22 調査区の中央部西側(X140、Y5付近)に位置し、SX1の須恵器集中区域の上器がない場所に径25cm、深さ22cmの規模の円形を呈している。覆土はオリーブ黒色シルトで、遺物はなかった。須恵器を取上げ後に周辺一帯を精査したが、これ以外の遺構は確認できなかった。

SK23 調査区の北側中央部(X145、Y10付近)に位置するSX4の須恵器集中区域(平成21年度試掘調査で検出済)の南側に位置し、長軸100cm、短軸30cm、深さが9cmである。遺物は出土していない。須恵器は試掘調査時に取上げたが、本年度はこの土坑の他にも遺構があるかを確認したが、検出するには至らなかった。

ピット

検出した4基のP13・14・16・17は、調査区の西端(X125～135、Y0ライン)にほぼ一直線上に位置している。穴の西側は調査区外となるが、それぞれ断面から推定される穴の大きさと深さは表2のとおりである。覆土は褐灰色粘質土でSK16からは摩滅した土師器が出土した。西側の隣接地の水田では、田植後に水を張っている状態で、安全性を重視して残したアゼを掘削すると水田の畦が崩壊する危険があったため、これ以上の調査は断念した。しかしながら、前述したSB01に類似したほぼ南北方向に平行が向く形で立地する掘立柱建物の可能性があり、SB01よりも桁行き3間(8.5m)の規模が大きい。

遺構番号	平面形	規模(cm)			柱根の有無
		長軸	短軸	深さ	
P13	円	34	12	14	—
P14	横円	46	14	20	—
P16	横円	40	20	26	—
P17	横円	47	20	20	—

表2 ピット一覧表

不明遺構

不明遺構は、主に須恵器が集中して出土した範囲を示したもののがSX1とSX4で、その他がSX2とSX3である。基本的には他の遺構と同様にⅢ層上面で検出している。

SX1 調査区の西側の中央辺り(X140、Y5付近)には、8世紀初頭頃に帰属する須恵器の破片が集中して堆積していた。全体は長さ5m×幅1.5mの範囲である。これは昨年度の試掘トレンチで一部を確認し、取上げはせずに現地で保存したものであった。一亜体の遺物としては須恵器の壺を11点、横瓶を2点、土師器の壺を1点を数える。検出時は口縁部が立っている状態の個体を少なくとも3点確認していた。それとは対照的に底部破片の確認はできなかった。現地では検出時や取上げ後に周辺一帯を含め精査したが、明確な遺構のラインは確認できなかった。

SX4 調査区の北側中央部(X145、Y10付近)には、SX1と同じように須恵器の破片が集中して堆積する広がりがあり、全体は長さ5m×幅2mほどの範囲である。SX1と同時期となる8世紀初頭頃に属する。昨年度の試掘調査で検出している。一個体の遺物として須恵器の壺が5点、横瓶が1点、壺蓋と壺、そして砥石の各1点を確認した。検出時は倒位の状態であるが、口縁部の頭部までが残存する壺も認められた。SX1と同様に明確な遺構のラインはなかった。

SX1、SX4には、明確なつながりはわからない。破片の接合関係を検証する方法のひとつであるが、今回の整理時にはできなかった。両者の類似点は時期が同時期のものであること、壺が主として在り横瓶が1~2点在ることが挙げられる。また、出土した破片には流入した土器片のように激しい摩耗は見られず、その場で自然に壊れたような状態であることが見受けられる。

SX2・SX3 SX2は調査区の南西隅(X125、Y0付近)から北へ約8.5m、東へ8.5mの約55m²の範囲で、炭化物を多く含む土が広がる部分がある。包含層掘削後、遺構検出作業の過程で認められた部分であつたが、断面確認トレンチで炭化物が無くなる深さまでを確認し、約15cmの深さで全体的に下げたが、須恵器や土師器の遺物が出土したもの、新たな遺構は確認できなかった。SX3は、このSX2の東端を区切るように南北方向に走る長さ5m、幅50cm、深さ10~15cmの溝状の窪みを検出した。覆土は褐灰色粘質土で、土師器や須恵器の破片が数点含まれていた。SX2の範囲の端部をすべて周っているわけではない。SX2は明確な遺構とは捉えきれない。このため、記録上ではSX3以外のラインは破線で示した。

C 遺物(第12~17回、図版4~6)

本書では、遺構内および包含層出土遺物とも残存状態が良いものを図化し掲載した。その他の遺物については、前述の「B 遺構」にて文中にて記載した。

遺構内出土遺物(1~20)

遺構から出土した遺物は、奈良時代後半から平安時代初頭で、8世紀代のものが多い。

SX1出土(1~16) 1~11は須恵器甕である。1,2は口縁部が外反し、5本1単位の描書きによる波状文を2条巡らせる。3は肩部に4箇所の円形有孔の鋸をもつ。4~10はやや外に聞く短い口縁部を有する。4~6は肩の張りが強く、対して7・8・10は弱い。11は口縁部が短く外反する。12・13は須恵器横瓶で、12は短く外反する口縁部に権型の肩部をもつ、13は側面に羽状部が残る。14は土師器甕で長頸甕の上半部と見られるが、調整は摩滅している。15は短く下方へ延びる口縁部を有する坏蓋である。16は黒色土器碗で内面が撻しにより黒色化している。ミガキは摩滅し不明である。

SX2出土(17) 扁平な須恵器の坏蓋で、頂部がやや窪んだボタン形の摘みが付く。

SX3出土(18, 19) 18は摘み部分を欠くが、須恵器の坏蓋で口縁端部は直下に短く折れる。19は土師器碗で丸みを帯びた底部より緩やかに立ち上がる。ミガキは摩滅している。

SX2出土(20) 須恵器の坏で、底部は欠損しているがやや丸みのある体部である。

包含層出土遺物(21~50)

遺物は奈良時代後半～平安時代で主に8世紀代に帰属するものが多く、そのほかに室町時代で15世紀代に帰属するものが出土している。

(奈良時代後半～平安時代)

21~39は須恵器である。21~28は坏蓋、29・30は坏A、31~37は坏B、38は高杯、39は瓶などがある。40~43は黒色土器で40・41は坏B、42は鉢、43は高杯である。このほか47は玉縁状の口縁部を特徴とする白磁IV類(11世紀後半～12世紀前半)に属する白瓶である。

(中世)

45・46は土師器の皿である。手捏成形で15世紀代と考えられる。48・49は珠洲の壺、50は珠洲の擂鉢で、いずれも吉岡編年の中V～VI期(14世紀後半～15世紀後半)の範疇に収まる。

このほか、時期不明の遺物として、44の土師質土器で鉢と見られるが、摩滅のため調整は不明である。51は両面が研磨された砥石である。

(参考文献)

- 小矢都市教育委員会 1993 『平成4年度小矢都市埋蔵文化財発掘調査実報』
- 小矢都市教育委員会 1994 『平成5年度小矢都市埋蔵文化財発掘調査実報』
- 小矢都市教育委員会 2010 『平成21年度小矢都市埋蔵文化財発掘調査実報』

第V章　まとめ

遺構

今回の調査では掘立柱建物1棟、土坑7基、ピット4基、不明遺構4ヶ所を確認した。

掘立柱建物は庇の付く側柱建物で、規模は3間×2間である。床面積は22m²で、桁行方向から南北棟で、真北に対して26°の振れである。

土坑は規模が様々でそれぞれが特に規則性を持って設置されたものではないと考えられる。

ピットは4基が南北方向にはほぼ一直線上に位置している。これに続く西側に展開するであろうピットの存在については調査区外につき確認できなかったが、掘立柱建物の柱穴列であると考えられる。

不明遺構は8世紀初頭の須恵器が集中して堆積していた範囲が2ヶ所(SX1とSX4)と、炭化物を多く含む土層範囲(SX2)とそれをめぐる溝状遺構(SX3)を確認している。

SX1、SX4は、8世紀初頭ごろに帰属する須恵器の破片の集中区であった。上器破片が大きく摩滅も認められないことから、完成品として置かれていたものが破損し埋没した可能性が高いと考えている。しかしながら、周辺で集中区を覆う建物は認められなかった。この検出状況からは廃棄された須恵器である可能性も考えられる。

調査地より直線で250m先に位置する谷内窯跡、南西に直線で300m先に位置する松永窯跡群や松尾窯跡群からの撤入品である可能性を考えられる。これらの窯跡群の操業期間内に今回出土した須恵器の帰属する8世紀初め頃は合致している。

遺物

今回出土した土器は、土師器(壺・碗・鉢)、須恵器(壺・横瓶・壺・壺蓋・高杯)がほとんどであり、ほかに黑色土器や白磁が古代の遺物として出土している。また珠洲や中世土師器の中世の遺物と近世陶器が包含層より上層で出土している。そのほかに時期はわからないが上師質土期や砥石も若干出土している。

今回の調査では、包含層より中世以降の遺物が出土しているが、遺構面は認められなかった。これは後世における開発によって削平されたものと考えられる。

近隣地における既存の調査結果(第6回)

今回の調査区より約20m南東方向に位置する平成4年度の調査(=「平成4年調査」と記述する。)について概要を掲載し、同時期の遺構や遺物を基に周辺を概観したい。調査は譲住宅地の造成およびアパート建設、駐車場造成に伴い実施されたもので、以下に調査結果の概要と、検出遺構および出土遺物を時代別に記す。

古墳時代(5世紀代)

遺構:溝

遺物:土師器(壺・壺)、古式須恵器(壺・壺)、滑石製小玉、木製品、堅果類(トチ・クルミ)、ヒヨウタン

奈良時代(8世紀初頭)

概要:検出された建物や溝はすべてW-43° - Nに方位をとっていた。これらから、この時期に行われた当地での律令制整備は南北に方位をとるのではなく、斜めの方位をとる「斜行地割り」であったことを示し、同時に当地での開発や整備がこの時期に本格的にはじまつものと考えられる。また、出土した墨書き土器には人の顔のようなものが墨で書かれ、疫を祓う儀式に使用された可能性も考えられる。また、陶棺の破片は調査区全体にひろく散在し、それを眺めた明確な遺構は確認されていない。

遺構:掘立柱建物2棟(便宜的にA棟とB棟と付す)、溝多数

遺物:土師器(壺・鍋・椀・坏)、墨書き土器、須恵器(壺・長頸瓶・坏・坏蓋)、土馬、土鈴、陶棺、轍の羽口、木製品

平安時代末頃～中世(12世紀後半～14世紀代)

概要:検出された建物や溝・橋は、ほぼ正南北に方位をとっている。これは中世に発達した「中世条里(型)地割り」に即しており、遺跡周辺に良好に残されていた条里地割りの方位に一致する。当地一帯は保元3年(1158)の太政管符にある石清水八幡宮領の「埴生保」に比定される。

遺構:掘立柱建物2棟、井戸1基、櫛5列、溝多数

遺物:珠洲、越前焼、中世土師器、青磁碗、青白磁合子蓋、砥石、輪の羽口、漆器ほか木製品

今回の調査と平成4年調査では、8世紀初頭ごろの遺構・遺物がほぼ合致している。遺構では掘立柱建物を比較したところ、規模等は以下のとおりであった。

調査年度と遺構 内 容	平成22年度調査 SB01	平成4年度調査 A棟	平成4年度調査 B棟
柱間数(規模m) (桁行き) × (梁行き)	3間(5.5m) × 2間(4m)	3間(7.5m) × 2間(5m)	3間(10.5m) × 2間(4m)
床面積(m ²)	22	37.5	82.5
方 位	N-26° - W	N-43° - W	N-43° - W

*B棟については推定の数値である。

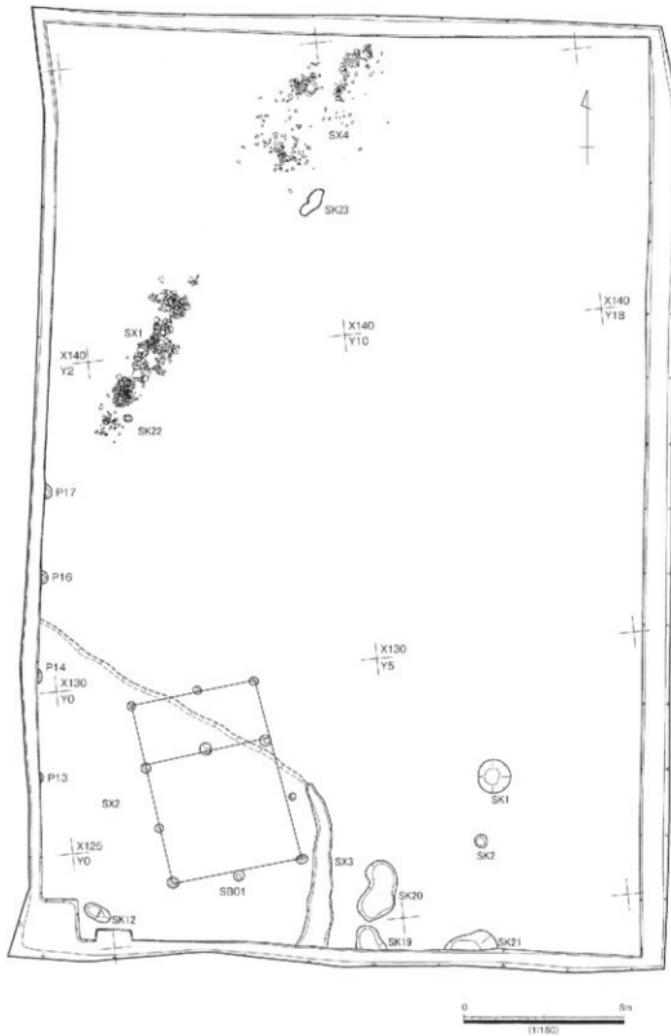
規模はすべて同じであるが、その床面積については平成4年調査の方が圧倒的に大きいが、これは建物の使用目的が違う可能性が考えられる。

表3 遗物观察表

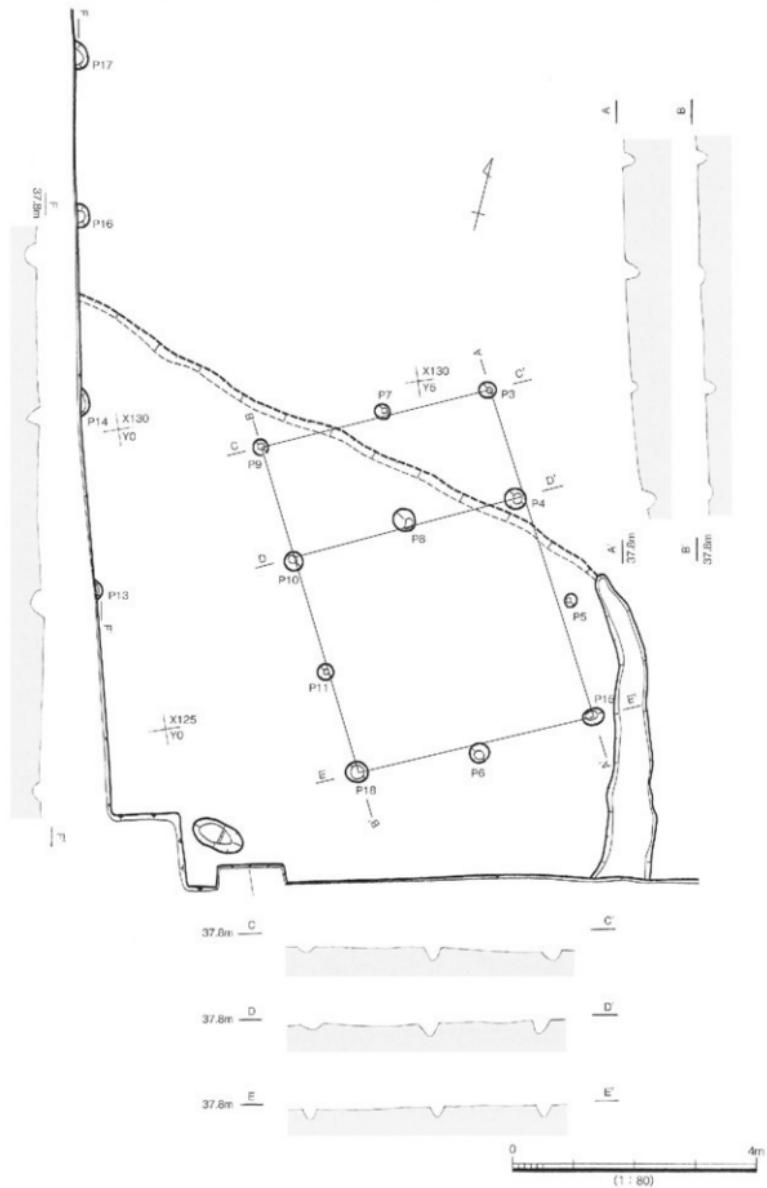
特征号	特征	属性	特征项	分组名	特征名	特征值	大8.3	黏土	礁灰	陶质(机面)	陶芯率
第12组	1	-	SX-1	细灰器	黑	口径:42.0cm 高:4.5cm 腹深:6.8cm(残件)	雷	良好	灰白色(2.5Y7/1)	4/12	
第12组	2	-	SX-1	细灰器	黑	口径:46.0cm 高:4.3cm 腹深:6.6cm	雷	良好	灰黑色(2.5Y7/2)	7/12	
第13组	3	-	SX-1	细灰器	黑	口径:22.3cm 高:4.7cm 腹深:5.1cm(残件)	雷	良好	灰黑色(3Y5/1)	4/12	
第13组	4	-	SX-1	细灰器	黑	口径:22.3cm 高:4.7cm 腹深:5.1cm(残件)	雷	良好	灰黑色(3Y5/2)	4/12	
第14组	5	-	SX-1	细灰器	黑	口径:22.3cm 高:4.7cm 腹深:5.1cm(残件)	雷	良好	灰黑色(10Y3/1)	5/12	
第14组	6	-	SX-1	细灰器	黑	口径:22.4cm 高:4.5cm 腹深:5.0cm(残件)	雷	良好	灰黑色(7.5Y7/1)	8/12	
第15组	7	-	SX-1	细灰器	黑	口径:24.4cm 高:4.5cm 腹深:5.2cm(残件)	雷	造成	灰黑色(2.5Y7/1)	7/12	
第15组	8	-	SX-1	细灰器	黑	口径:24.3cm 高:4.5cm 腹深:5.1cm(残件)	雷	良好	灰黑色(2.5Y7/2)	8/12	
第15组	9	-	SX-1	细灰器	黑	口径:22.2cm 高:4.8cm(残件)	雷	良好	灰黑色(2.5Y7/2)	2/12	
第15组	10	-	SX-1	细灰器	灰	口径:24.7cm 高:4.5cm 腹深:4.4cm(残件)	雷	良好	灰褐色(3.5Y6/1)	12/12	
第15组	11	-	SX-1	细灰器	灰	口径:44.0cm 高:4.5cm 腹深:7.25cm(残件)	雷	良好	灰褐色(2.5Y10/4)	1/12	
第16组	12	-	SX-1	细灰器	灰	口径:15.6cm 高:4.5cm 腹深:3.8cm(残件)	雷	良好	灰褐色(10Y6/1)	3/12	
第16组	13	-	SX-1	细灰器	灰	口径:18.3cm 高:4.5cm(残件)	雷	良好	灰白色(2.5Y8/1)	6/12	
第16组	14	-	SX-1	细灰器	灰	口径:22.4cm 腹深:12.5cm(残件)	雷	不良	灰白色(2.5Y8/2)	2/12	
第16组	15	-	SX-1	细灰器	灰	口径:15.2cm 高:4.5cm(残件)	雷	良好	深灰褐色(5.5Y6/1)	5/12	
第16组	16	-	SX-1	细灰器	灰	口径:14.0cm 高:4.5cm 腹深:2.95cm(残件)	雷	良好	灰白色(10Y6/2)	1/12	
第16组	17	-	SX-2	细灰器	灰	口径:11.8cm 高:4.5cm(残件)	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	9/12	
第16组	18	-	SX-3	细灰器	灰	口径:11.0cm 腹深:1.0cm(残件)	雷	不良	颗粒状(10Y8/6)	5/12	
第16组	19	-	SX-3	细灰器	灰	口径:10.0cm 高:3.6cm 腹深:2.7cm	雷	不良	灰白色(2.5Y8/2)	2/12	
第16组	20	-	SX-2	细灰器	灰	口径:12.0cm 腹深:3.6cm(残件)	雷	不良	灰褐色(7.5Y8/1)	3/12	
第17组	21	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:11.8cm 高:4.5cm 腹深:2.9cm	雷	良好	深灰色(5.5Y6/1)	3/12	
第17组	22	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:12.0cm 高:4.5cm 腹深:2.8cm(残件)	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	2/12	
第17组	23	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:12.5cm 高:4.5cm 腹深:2.8cm 腹深:2.85cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	2/12	
第17组	24	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:11.8cm 腹深:1.85cm(残件)	雷	良好	灰白色(5.5Y6/1)	2/12	
第17组	25	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:14.0cm 高:4.5cm 腹深:3.4cm(残件)	雷	不良	灰白色(7.5Y7/2)	3/12	
第17组	26	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:14.0cm 腹深:1.5cm(残件)	雷	良好	灰白色(10Y6/1)	1/12	
第17组	27	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:14.0cm 腹深:1.2cm(残件)	雷	良好	灰白色(5.5Y6/1)	2/12	
第17组	28	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.8cm 腹深:2.8cm(残件)	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	2/12	
第17组	29	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:17.0cm 高:7.5cm 腹深:3.8cm	雷	不良	灰白色(10Y6/1)	9/12	
第17组	30	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:11.8cm 高:4.5cm 腹深:3.2cm	雷	良好	灰白色(7.5Y7/1)	3/12	
第17组	31	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:10.5cm 高:4.5cm 腹深:3.0cm	雷	良好	灰白色(5.5Y6/1)	6/12	
第17组	32	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:12.0cm 高:4.5cm 腹深:4.4cm	雷	良好	灰白色(5.5Y7/2)	12/12	
第17组	33	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:11.7cm 腹深:3.4cm	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	3/12	
第17组	34	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:10.0cm 腹深:5.9cm	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	3/12	
第17组	35	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:10.0cm 腹深:5.9cm	雷	不良	灰白色(7.5Y7/1)	3/12	
第17组	36	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:10.0cm 腹深:5.9cm	雷	不良	灰白色(7.5Y7/2)	6/12	
第17组	37	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:17.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	3/12	
第17组	38	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	1/12	
第17组	39	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:16.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	灰白色(7.5Y7/2)	12/12	
第17组	40	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:17.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	5/12	
第17组	41	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:17.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	2/12	
第17组	42	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:18.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	颗粒状(5Y8/2)	2/12	
第17组	43	2.5Y7/0	金合器	金合器	黑	口径:18.0cm 高:7.5cm 腹深:2.2cm(残件)	雷	良好	深灰色(10Y6/3)	6/12	
第17组	44	2.5Y7/0	金合器	土层留一鼎	灰	口径:19.0cm 高:7.5cm 腹深:3.4cm(残件)	雷	良好	深灰色(5Y8/2)	1/12	
第17组	45	2.5Y7/0	金合器	土层留一鼎	灰	口径:18.2cm 高:7.5cm(残件)	雷	不良	深灰色(5.5Y6/3)	2/12	
第17组	46	2.5Y7/0	金合器	一鼎留一鼎	灰	口径:12.2cm 高:7.5cm 腹深:2.0cm(残件)	雷	良好	深灰色(7.5Y7/2)	1/12	
第17组	47	2.5Y7/0	金合器	一鼎留一鼎	灰	口径:14.4cm 高:7.5cm 腹深:2.0cm(残件)	雷	良好	深灰色(5.5Y6/2)	1/12	
第17组	48	2.5Y7/0	金合器	一鼎留一鼎	灰	口径:14.6cm 高:7.5cm(残件)	雷	良好	灰褐色(3.5Y6/2)	1/12	
第17组	49	2.5Y7/0	金合器	一鼎留一鼎	灰	口径:14.6cm 高:7.5cm(残件)	雷	良好	灰褐色(7.5Y7/0)	1/12	
第17组	50	2.5Y7/0	金合器	三鼎留一鼎	灰	口径:16.6cm 高:7.5cm(残件)	雷	良好	灰褐色(5.5Y6/2)	2/12	
第17组	51	2.5Y7/0	金合器	三鼎留一鼎	灰	口径:16.6cm 高:7.5cm(残件)	雷	良好	灰褐色(7.5Y8/1)	—	



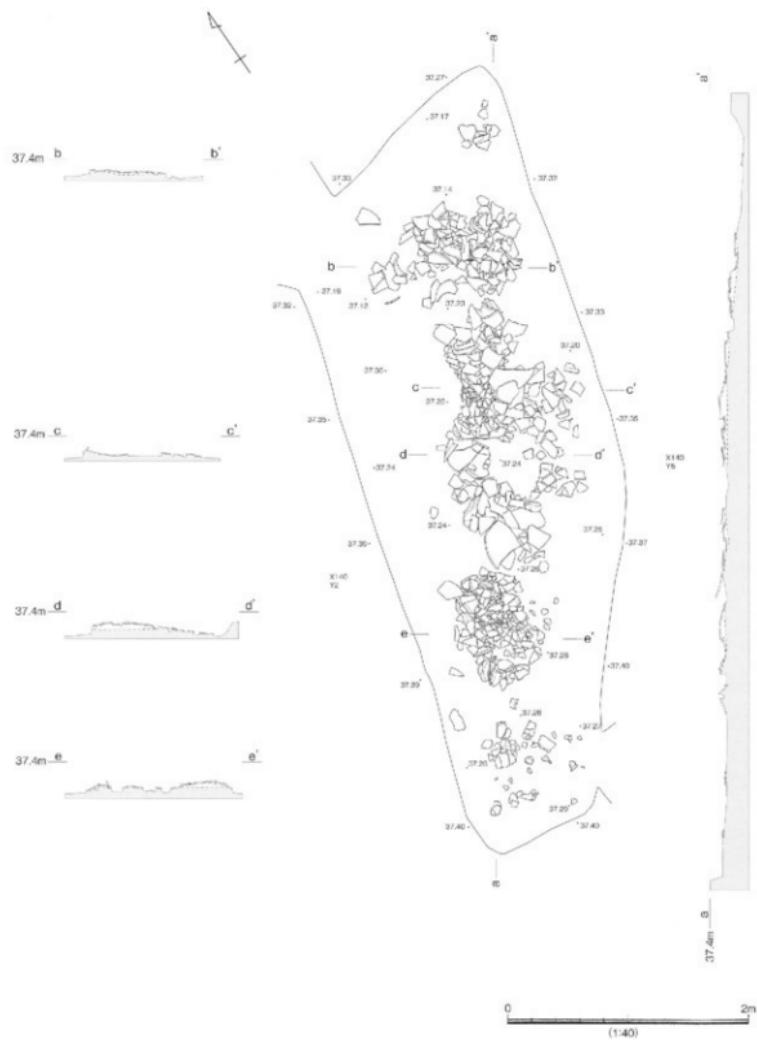
第5図 既存調査と平成22年度調査の遺構配置図(1:800)



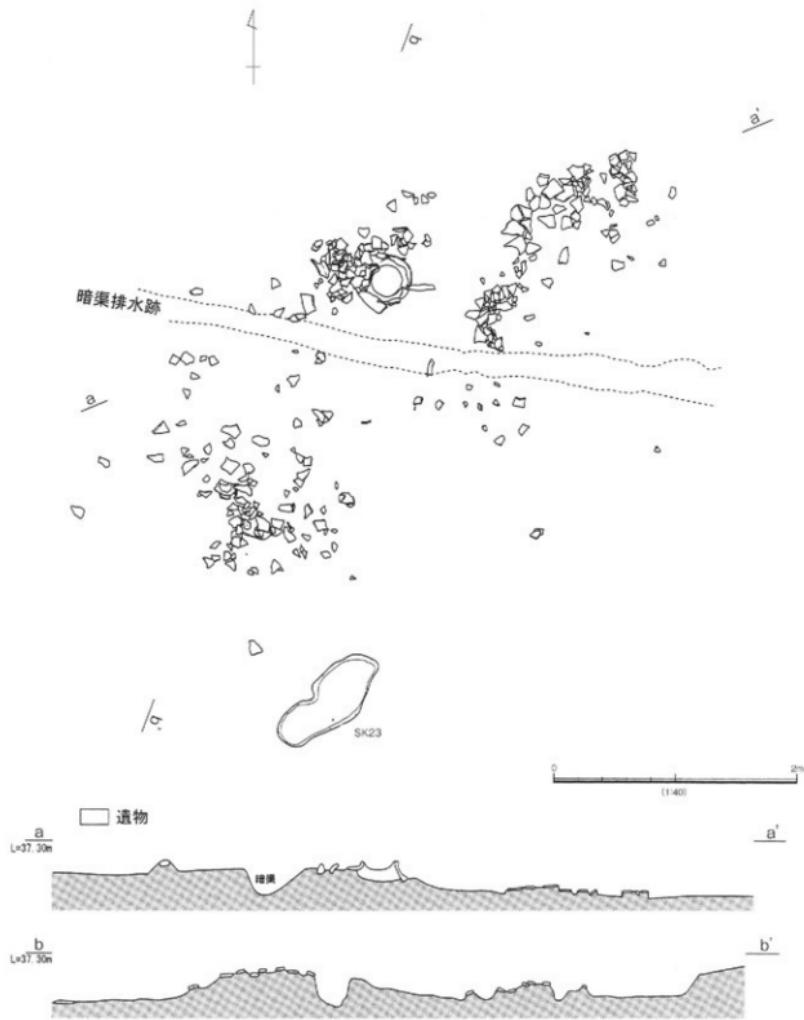
第6図 遺構全体図(1:150)



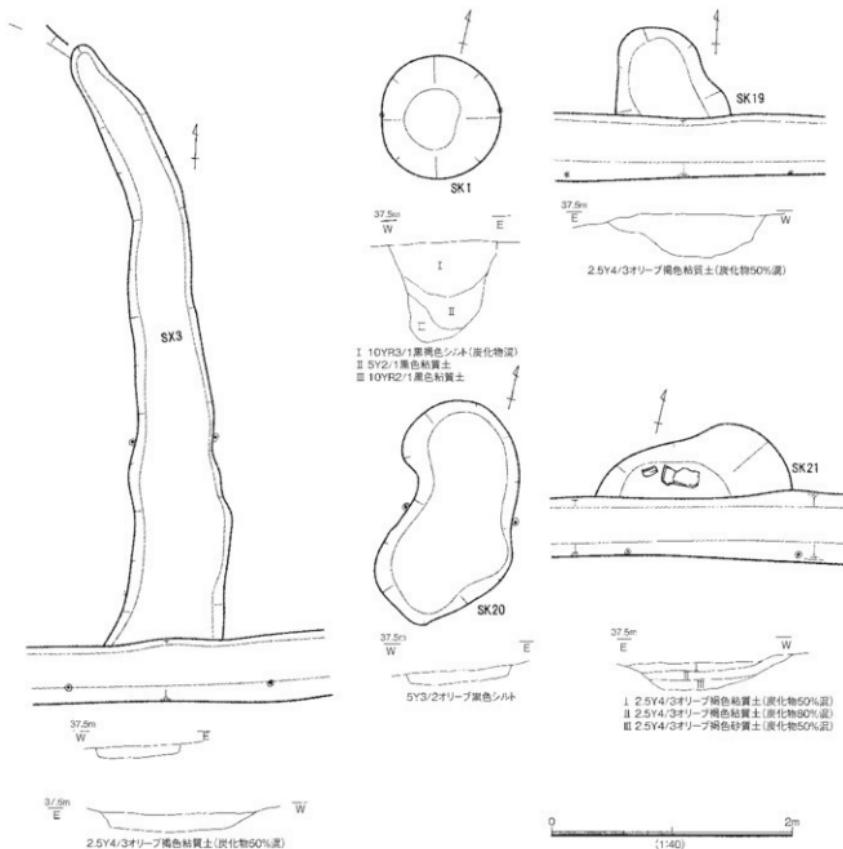
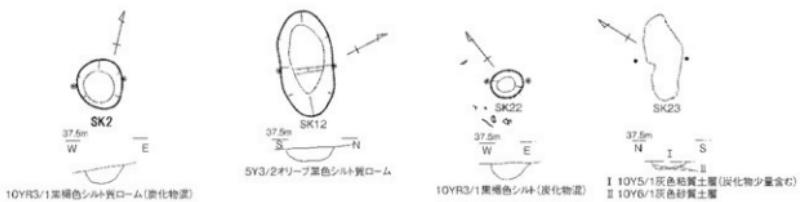
第7図 掘立柱建物SB01平面図・断面図(1:80)



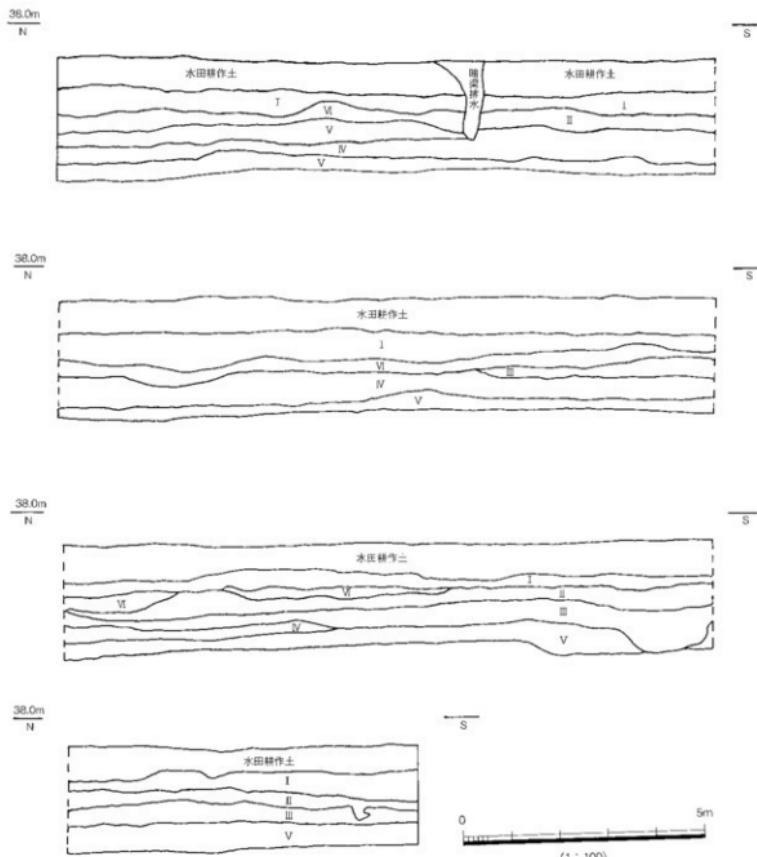
第8図 SX1造構平面・断面図(1:40)



第9図 SX4遺構平面・断面図(1:40)

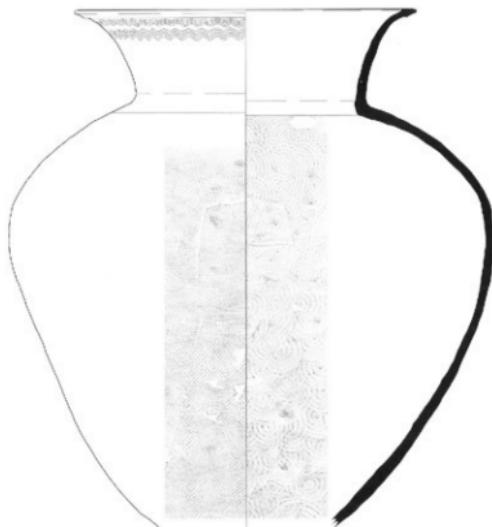


第10図 土坑ほか遺構平面・断面図 (1:40)

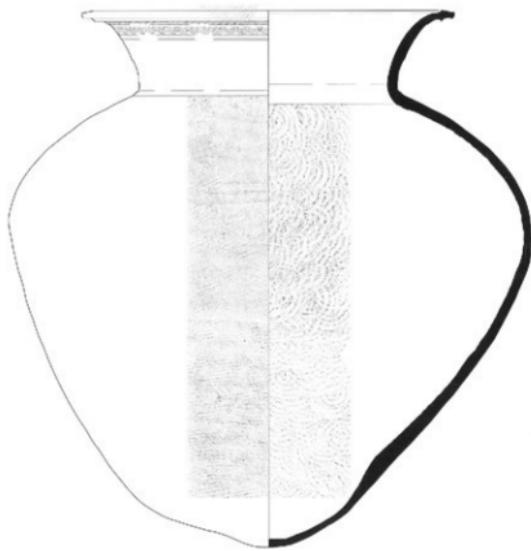


水田耕作土 10YR4/2灰黄褐色シルト
 I 10YR4/1灰褐色シルト
 II 10YR3/2黒褐色シルト(炭化物混)
 III 10YR3/3暗褐色シルト
 IV 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
 V 2.5Y4/1黄灰色粘土
 VI 2.5Y5/2暗灰黄色砂

第11図 調査区東壁断面図(1:100)



1



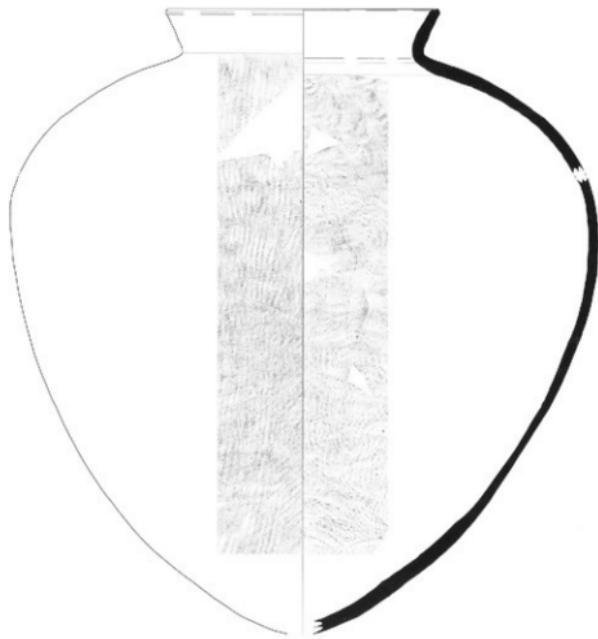
2

第12図 遺物実測図1

0 (16) 20cm



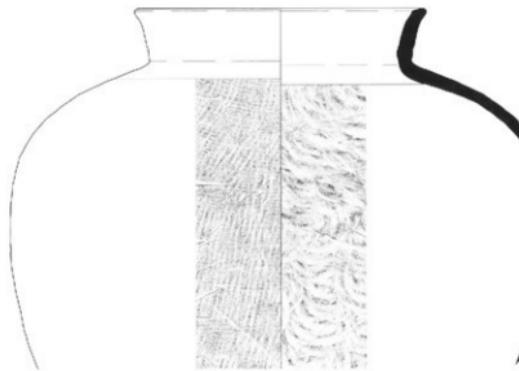
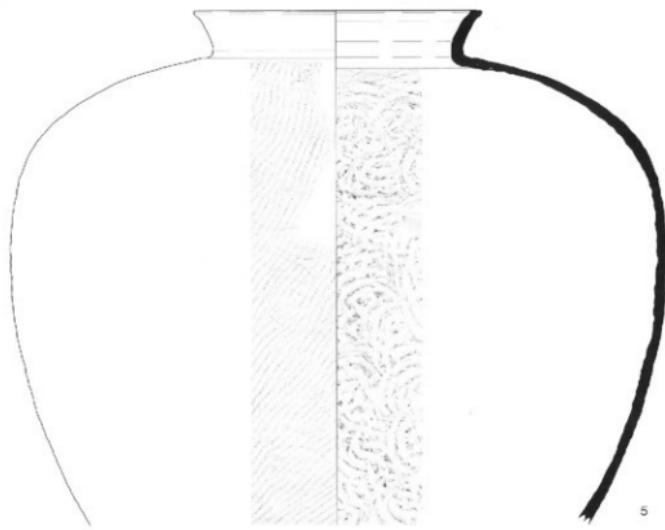
3



4

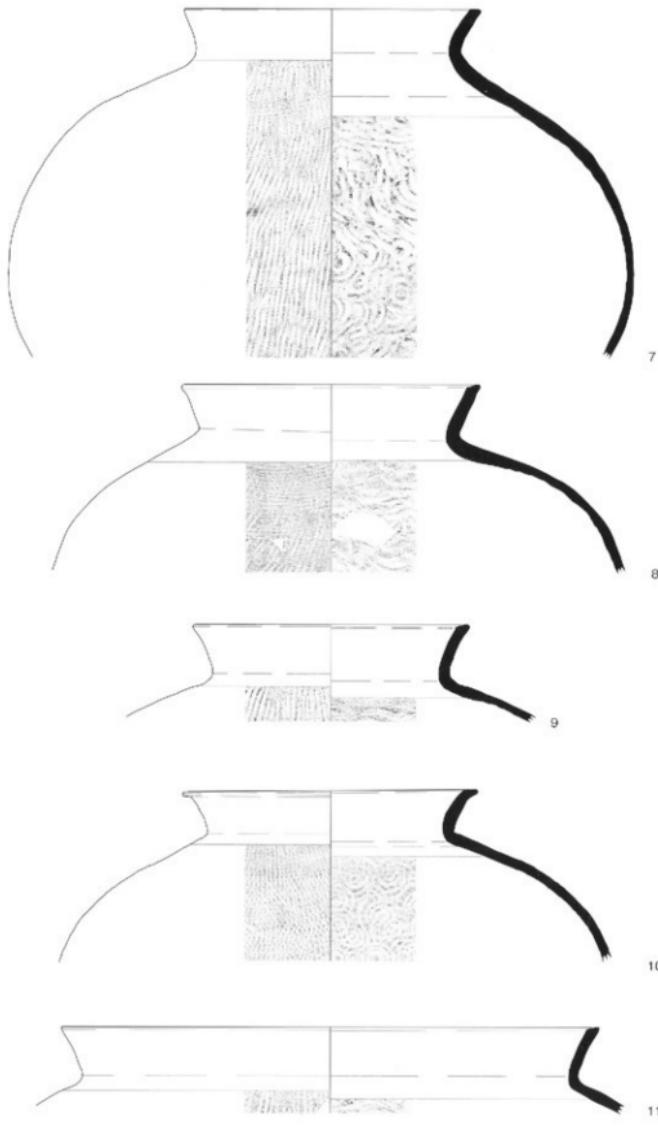
第13図 遺物実測図2

0 (1:4) 10cm



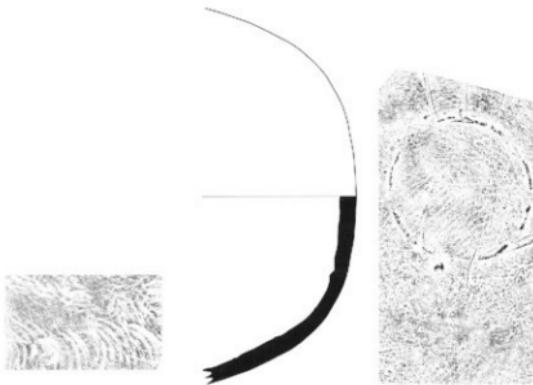
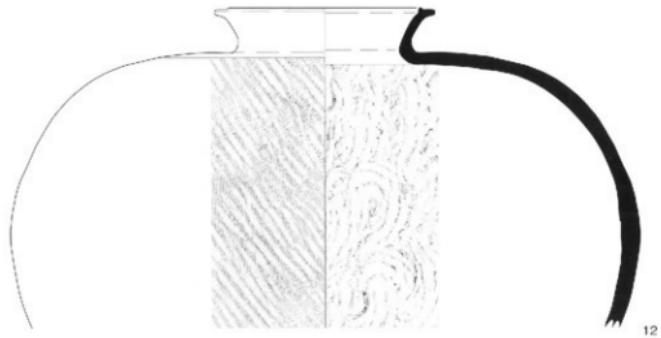
第14図 遺物実測図3

0 (1/4) 10cm

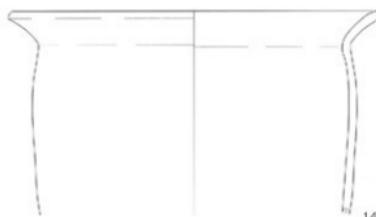


第15図 遺物実測図4

0 (1:4) 10cm



13



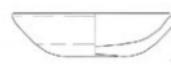
14



15



17



19



16

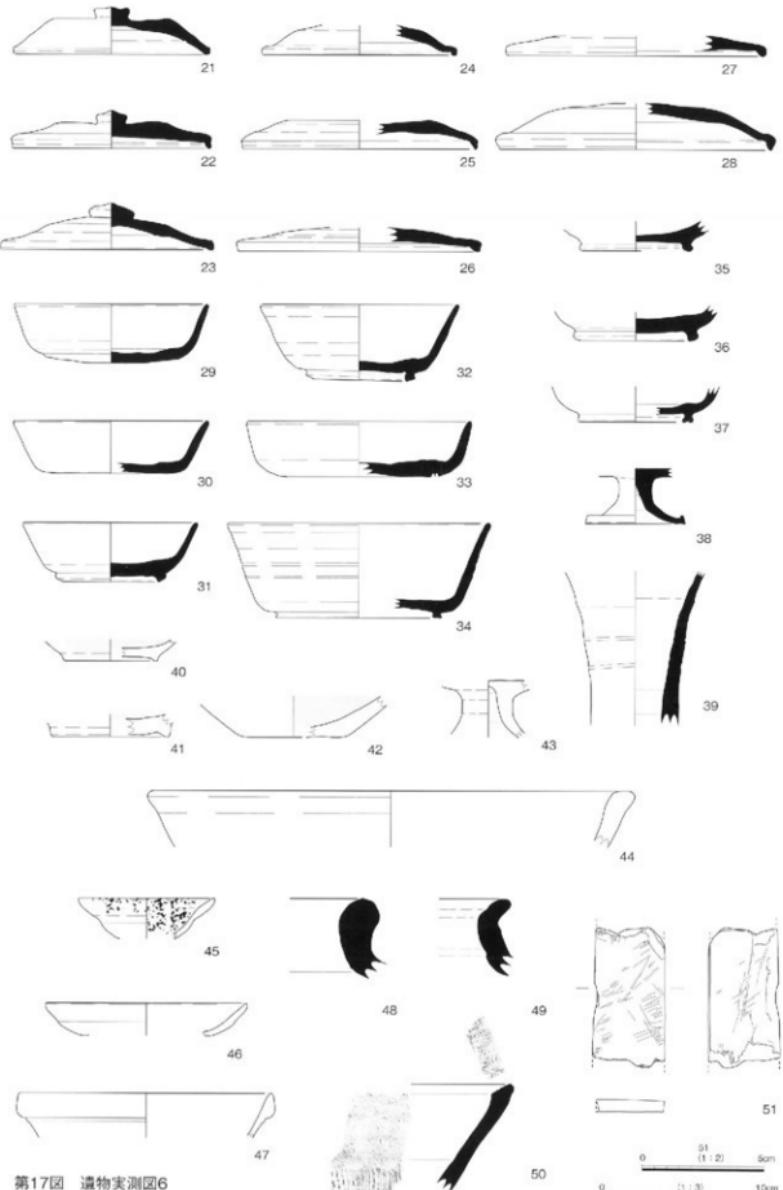


18

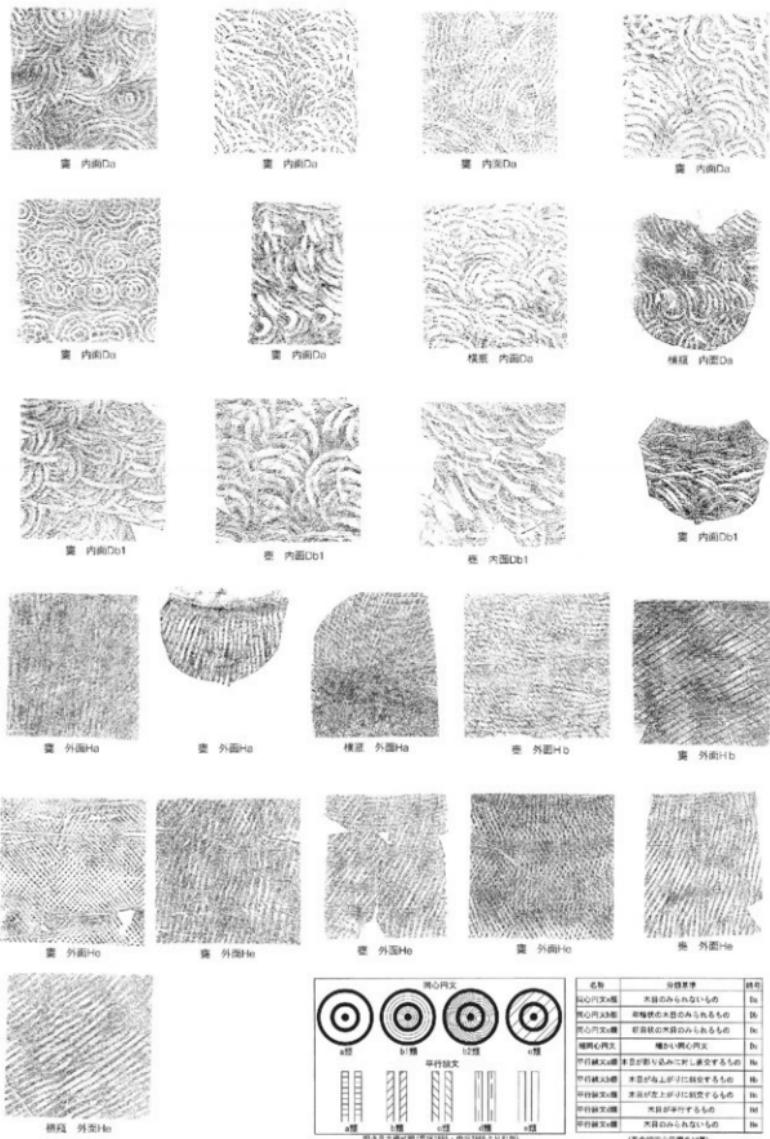


0 (1:3) 10cm

第16図 遺物実測図5



第17図 遺物実測図6



第18図 SX1出土須恵器のたたき目の種類(拓本)

図版1



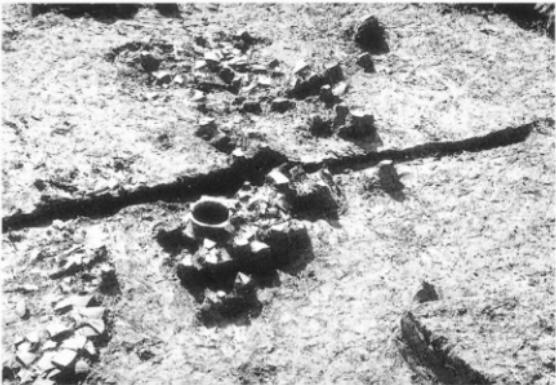
調査区全景(北より)



掘立柱建物(南より)



SX1(北より)

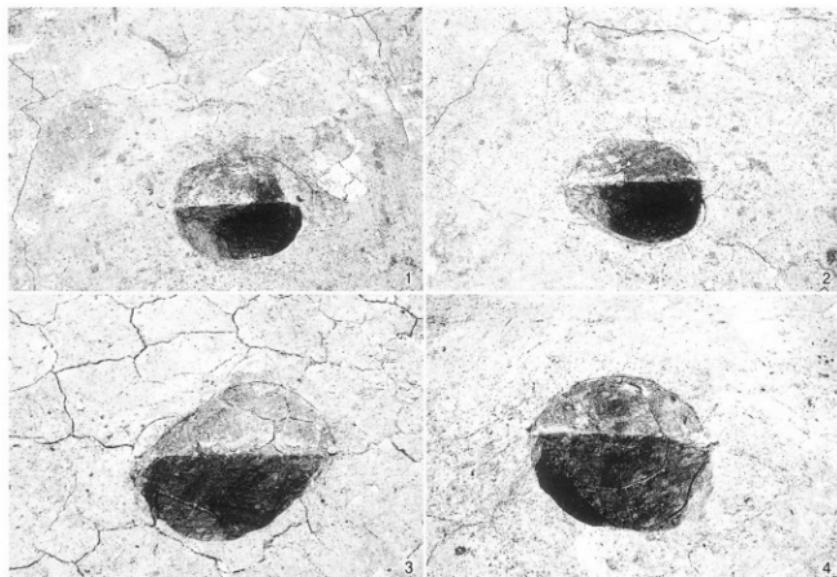


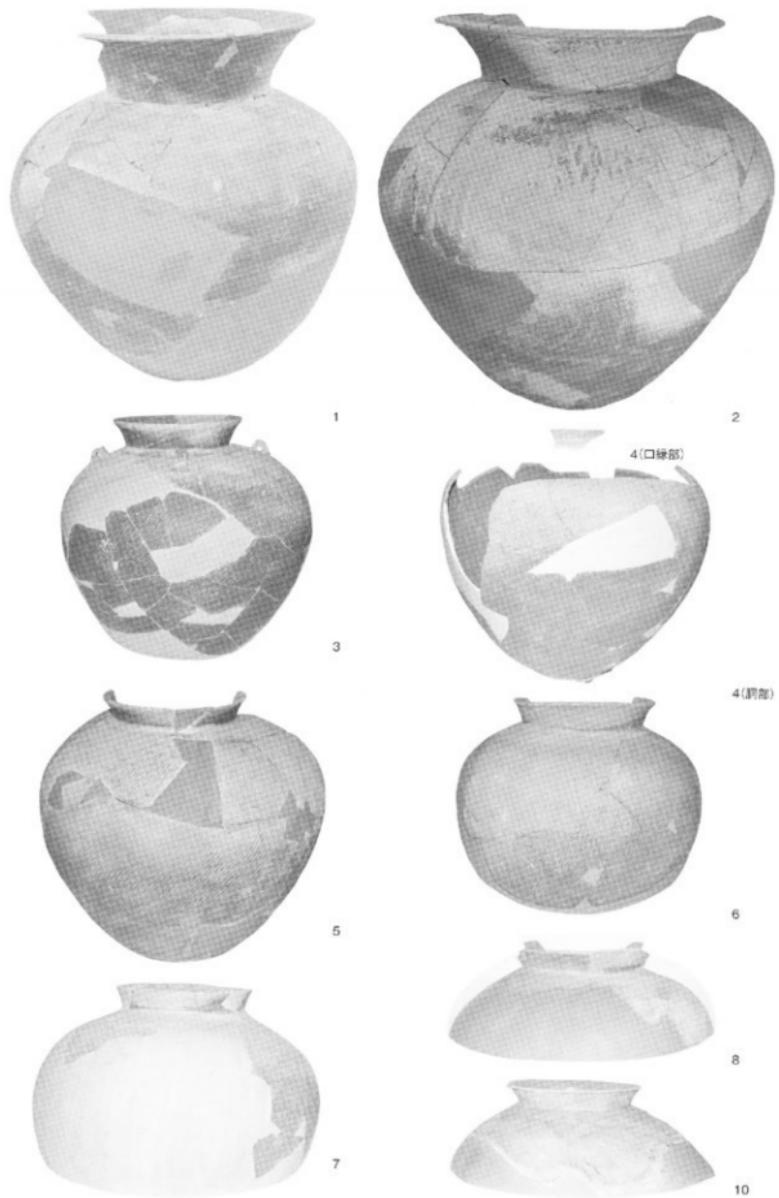
SX4(北より)



東壁(南北より)

図版3

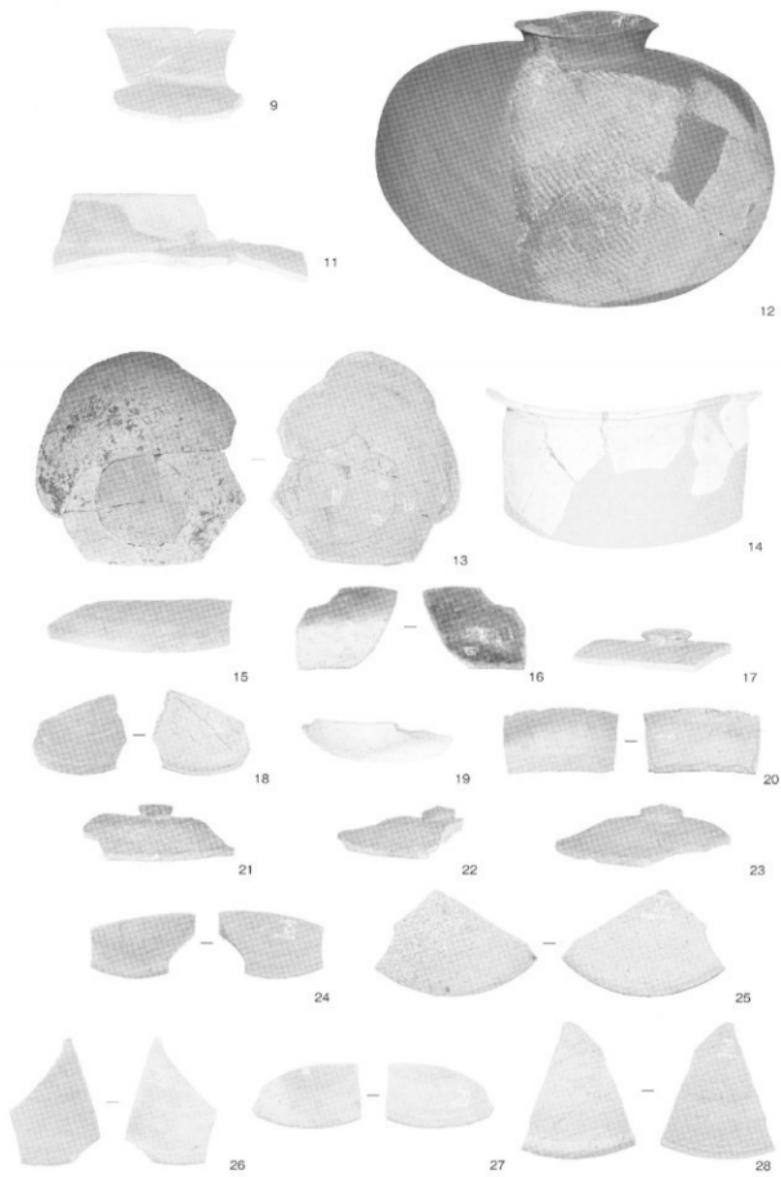




出土遺物(1~8・10:SX1)

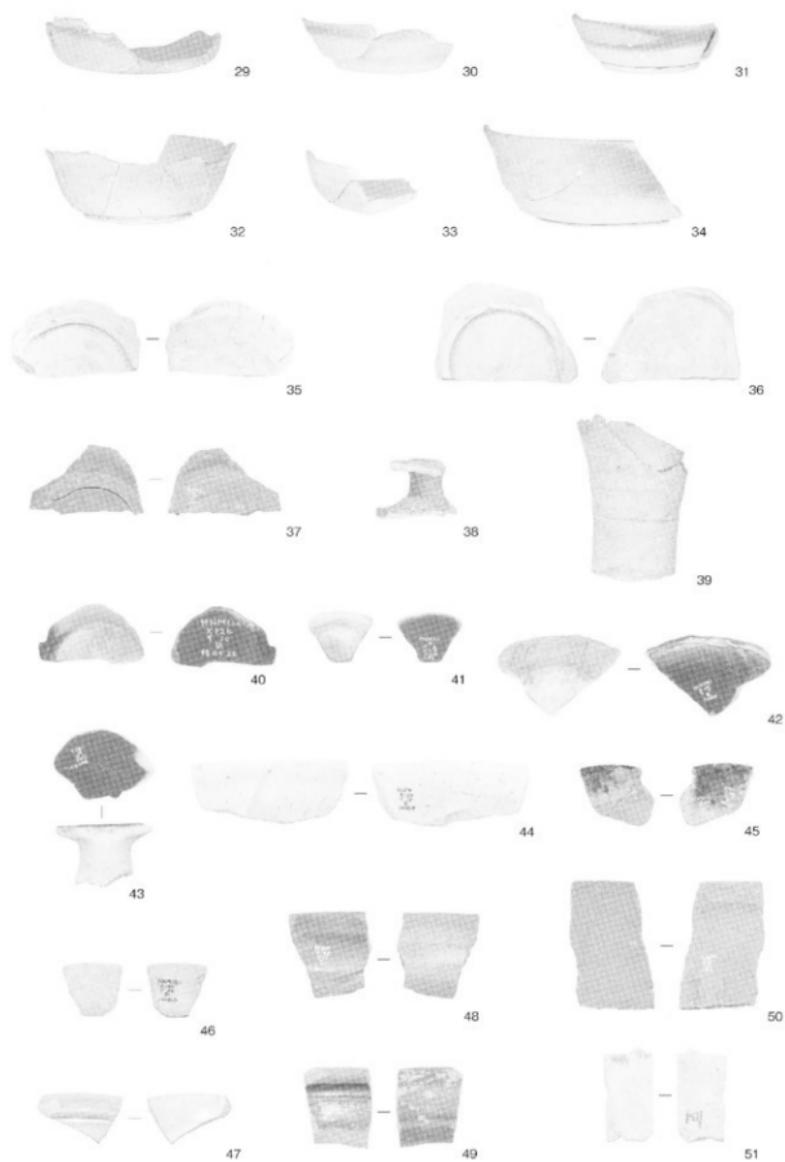
1~10:1/8

図版5



出土遺物(9・11～16: SX1, 17: SX2, 18・19: SX3, 20: SK21, 21～28: 包含層)

9・11～14: 1/4, 15～28: 1/3



出土遺物(29~51:包含層)

29~51:1/3

報告書抄録

ふりがな	はにゅうみなみいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	埴生南遺跡発掘調査報告書							
副書名	宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第70冊							
編著者名	中井 真夕							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2011年3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° °	調査期間 ° ° ° (西暦)	調査面積 m ²	調査原因	
はにゅうみなみいせき 埴生南遺跡	おやべし 小矢部市 はにゅう 埴生	16209	209053	36° 41' 21"	136° 54' 26"	20100426~ 20100621	600	宅地造成事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
はにゅうみなみいせき 埴生南遺跡	集落	古代	掘立柱建物、 土坑、ピット、 不明遺構	上師器、須恵器 黒色土器・白磁				
	散布地	中世	なし	中世土師器・珠洲				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第70冊

富山県小矢部市

埴生南遺跡発掘調査報告書

－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査－

発行日 平成23年3月17日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 39デザイン

